

## 第7次本別町総合計画策定審議会（第2回）会議

期 日 令和元年11月14日（水）18:30～  
会 場 本別町体育館中競技室

出席 杉臣会長、伊藤委員、橋本委員、細田委員、朝日委員、井出直美委員、門田委員、  
新津初男委員、井出壬午委員、齋委員、新津直子委員、小林委員、今村委員

### 1. 開会

### 2. 杉臣会長あいさつ

本別町の未来計画を作成する大事な審議会です。活発な論議のもと協議をいただくようお願いします。

### 3. 委員の変更及び文教厚生部部会長の選任について

- ・事務局 委員の変更 ①商工会岡崎委員から朝日委員に変更（朝日委員は観光協会と兼務）②萩委員が11月2日にお亡くなりになり、後任を老人クラブから選考中。③文教厚生部 部会長をお願いしている菅原委員、都合により当面会議に出席できないため、新津直子委員に部会長をお願いしたい。
- ・杉臣会長 3点について事務局より報告、提案がありましたが、皆さんより何かありますか（ありません）それでは事務局報告どおり、よろしく願いいたします。

### 4. 前回会議の振り返りと今回会議の目的について

- ・事務局 3ページから5ページにより前回会議内容を説明。6ページ。今日の会議の論点。今日はアンケート結果からお気づきの点について、1時間程審議員のみなさんからの感想とご意見をいただき、意見交換の場としていきたい。その後、その意見等を基にまちが進むべき方向性について15分程議論をいただき、今後のスケジュールについて20時20分頃説明させていただきたいと考えている。第3回では重点的に何を取り組むべきかをお話いただきたいと思います。そこにつながるような方向性を見出していければ。今回の開催案内と一緒に送付した帯広市総合計画の原案の10ページにまちづくりの目標と15.16ページに21の施策が書かれている。この帯広市の計画は基本計画のイメージとして参考にしていただければ。この計画を見本という事ではなく、8ページに将来像があって、その下にまちづくりの目標があって、さらに施策があるというイメージ持っていただきやすいように考えた。他にも各部会でも話をいただく機会をつくっていきたい。今日は委員ヒアリングとなる。

### 5. 議 事

#### (1) アンケート結果の概要報告

- ・人口分布、回答者居住地区とも本別地区が75%超
- ・回答者の61.98%が60歳以上
- ・10月31日現在の65歳以上高齢化率41.2%、75歳以上の後期高齢化率22.5%
- ・全体的には暮らしの安全、子育て、医療、交通手段への高い関心が示されている
- ・アンケート2ページ 年代別年齢人口において20歳代の女性数が少ない
- ・アンケート5ページ Q4「①本別町に住み続けたい」192人50%、「②当分は住み続けたい」人が131人34.11%合わせて84.11%と高い。

- ・議案 7 ページ前比較では住み続けたいと回答した人が 29.8%で 20.2%増
- ・アンケート 40 ページ Q12 どんなまちになることを望むか（複数回答）では「安心して医療が受けられる、健康づくりに積極的なまち」を 185 人 18%の人が選択。また、「農業や工業、商業などの産業が盛んなまち」を 182 人 17%、384 人の回答者の 47.4%の人が選択している。
- ・農業関連ではアンケート 22 ページ Q 6 自慢できるもの（複数回答）で「①豆類」を選んだ人が 186 人 12%、384 人の回答者の 48.4%と最も多く、他に基幹産業の農業に関する項目も多く回答されている。
- ・アンケート 40 ページ Q12 どんなまちになることを望むかでは「⑦高齢者や障がい者にやさしい福祉のまち」を 153 人 14%、384 人の回答者の 39.8%の人が選択。他に「⑥防災対策を推進し、犯罪の少ない治安のよい安心なまち」を 137 人 13%、384 人の回答者の 35.7%の人が選択している
- ・アンケート 13 ページ Q 5-③事故や犯罪が少なく安心して暮らせるでは「とてもそう思う」56 人 15% 「そう思う」181 人 47%。合わせて 237 人 61.72%。「どちらかと言えばそう思う」を含めると 344 人 89.58%が安心、安全な暮らしであると回答。
- ・アンケート 40 ページ Q12 どんなまちになることを望むかでは「出産や子育てがしやすいまち」を 127 人 12%、384 人の回答者の 33.1%の人が選択していますが、現状としては、14 ページ Q 5-④子どもが元気にいきいきと過ごせていると回答している人は 37 人 10%と低い状況にある。
- ・アンケート 11 ページ Q 5-①自然環境に恵まれていると思う人、「とてもそう思う」100 人 26%、「そう思う」161 人 42%合わせて 261 人 67.97%。「どちらかと言えばそう思う」を含めると 349 人 90.89%の人が自然環境に恵まれていると実感している。
- ・関連している項目としてアンケート 22 ページ Q 6 で自慢できるもので「⑭義経の里本別公園」を選んだ人は 188 人 12%、384 人の回答者の 49.0%に上っている。
- ・アンケート 22 ページ Q 6 自慢できるもので「⑳きらめきタウンファスティバル」を選んだ人は 226 人 14%、384 人の回答者の 69.3%の人と多くなっているものの、アンケート 16 ページ Q 5-⑥祭りなどのイベントが多く活気があるで「そう思う」32 人 8%と低い状況です。
- ・アンケート 26 ページ Q 9 人口減少の中で安心して暮らせる地域づくりのために取り組みすべきことでは（複数回答）「⑧路線バス、町営バスや循環バスなどの交通網の整備」に力を入れるべきとした人 147 人 11%、384 人の回答者の 38.3%の人が選択。足の確保交通体系に関心が寄せられ、それよりも多い回答として「①自治会や地域活動の活性化」に力を入れるべきとした人 159 人 17%、384 人の回答者の 41.4%が人の人のつながりが大切と回答されています。

#### 高校生アンケートから

- ・本別町に将来住みたいかの設問では「住みたい」6 人、「一度は本別を出て戻って来たい」8 人。合わせて 14 人 15.7%と少なく、「住みたくない」23 人、「どちらかと言えば住みたくない」17 人。合わせて 40 人 44.9%と半数近くを占めた。わからないが 35 人 39.3%。
- ・子どもが元気にいきいきと過ごせる。文化やスポーツに親しむことができる。祭りなどのイベントが多く活気がある。人が優しく協力的である。本別町が好きである。の設問では、「とてもそう思う」と答えた人が町民アンケートと比較して割合が高い。議案 9 ページにも記載。
- ・自由意見では高校生と地域住民、高齢者との交流を望む意見が多く出されている。
- ・まちの魅力の情報発信が不足しているとの意見も多くあった。

#### 中学生アンケートから

- ・本別町に将来住みたいかの設問では「住みたい」12 人、「一度は本別を出て戻って来たい」27 人。合わせて、39 人 30.7% 「住みたくない」21 人「どちらかと言えば住みたくない」27 人。合わせて 48 人 37.8%と「住みたい」を上回る結果。わからないが 37 人 29.1%

- ・子どもが元気にいきいきと過ごせる。文化やスポーツに親しむことができる。祭りなどのイベントが多く活気がある。人が優しく協力的である。本別町が好きである。の設問では、「とてもそう思う」と答えた人が町民アンケートと比較して、さらに高校生よりも割合が高い傾向。
- ・商業関係に対する意見が多い。

町民アンケート 28 ページからの各役務提供についてどうしていきべきかという問で、ゴミ・し尿処理収集から、29 ページでは道路・水道・下水道、そして、住宅整備や除去、公共施設・公園維持や整備ということで、それぞれの分野毎の回答がある。これらのアンケート結果を見ていったときに、第 1 回の審議会においてもご意見をいただいたとおり、行政サービスの中身については読み取れない部分もあるのではないかとということもあるが、共通して回答されていることとして、「提供する役務数を厳選して、残りの役務の質を保つべき」が多く、いわゆる取捨選択というか、人もお金も厳しい時代にあって、どれを残して、どれを変えていくのかということが必要になる。例えば 29 ページの道路・水道・下水道の整備について、提供役務を厳選して残った役務を確保してほしい。との意見が多くなっている。以下、30 ページも住宅に整備でも、31 ページ公共施設・公園維持や整備でも同じように厳選して役務の質を保つべきとなっている。以下も同様で、これを見て取れば利用者の負担を増やしていくことはあまり好ましくなく、今のサービスを維持するためには負担を増やすことも厳しいのではないかと。また、反対にサービスの数も質も下げることについても納得しかねる。提供するサービスを残すものは残して、厳選しながら実施していくことが望ましいとなっている。残す部分が健康づくりなのか、保育・教育なのか等、様々なご意見もあって、世代ごとにその考え方も違って来るわけで、総体的には厳選しながら提供するサービスを維持していくべきとの意見が多くなっている。

## (2) アンケート結果に対する委員意見交換

・委員 人が少なくなっている事に対して何とかしていかなくてはならない。人口が減っていくのは基本的に仕方がないこと。そこを緩和するには交流人口だとか関係人口を増やしていくために、色々と考えていかなければならない。人が居ないことには行政改革といったところで無意味なことになる。交流人口を増やしていくことが大事。ここにも出ているように施策も総花的でなく、事業も選択していかなければならないと思う。

細かいことでは小学生・中学生のひきこもり、不登校はどうなっているのか。それと AET（英語指導助手）が昔はいたのだけれど今はどうなっているのか。

・事務局 現在、資料も持っていないので詳しいことはお答えできない。学校や教育委員会、福祉サイドなどの関係者が集まって対策をとっていると聞いている。英語指導については 4 月から英語専門に指導を行う職員を雇用して、学校、高校、子ども園を含め指導を行っている。

施策の細部については今後、開く各部会の中で具体的に進めていく。

・委員 外国の先生が昔のように本別に住むという事はないのか。

・事務局 今は日本の先生が教えている。

・委員 ひきこもり、学校に来られない生徒に対し、学校側では何か新しいことをしているのか。来られないお子さんに、計画の中でも 7 次計画で専門員などの資格者を配慮していくのか。また、アンケートでは、ご提案くださいというところが 1 人ひとり、たくさん出ている。そこには重要なことが書いてある。そこへの考えは。

・事務局 細かな施策についてはこの場では答えられないので、後日確認してお知らせする。

・委員 ひきこもり、何人いてどうしているのか。

・事務局 今日はアンケート結果の内容について審議して、この後のまちづくりにどうつなげていくのかの話をしていただきたい。自由意見については既に課部局に全て周知しており、現在の業務改善やこれからの施策に活かしていく。

・**杉田会長** 自由意見の中で重要な事項と捉えているのか。これからの意見を返す場があるのか。活用をどう図っていくのか。

・**事務局** 自由意見では誤解をされているという内容もあり、正しくお示ししていくことも必要と考えている。個別具体的な案件、数をどうする等については議論をしていく機会を設けていきたい。自由意見の中で今後10年、こういったところにお金をかけていくべきではないのか、今までここにお金を使ってきたけれども、今後はシフトしていかなければならないのでは等、みなさんが生活していく視点で、私たちが気付かないことについてご意見をいただければと思っている。行政と町民のみなさんが話し合う機会が少なかったのではないかと。団体同士で協議し合えば良いものができるのではないのか。イベントではこれとこれを組み合わせるべきでないか。それらによってもっと大きく、すばらしいものができるのではないかと。産業も教育、福祉、文化などについて、隣近所と話をしている、行政に話をする機会がない等もあろうかと。そのようなことを審議会の皆さんにお集まりいただいて、幅広くどんなことであっても話をさせていただくことで、新たな気付きもある。今後10年を見ていったときに、ここ5年は必要ではないけれども6年目から行っていかなければならないのではないかと、そんなところも見ていただければと思っている。先程も話をしたゴミ・医療・福祉の問題だとかこれまでご議論もいただいている。事務局として、今すぐできること、予算をかけなくてもできることが、たくさん書いてある。たとえば病院で不快な思いをした等の意見では、スタッフが改善することができるし、役場庁舎の業務にあってもご指摘をいただいていることがあるので、進めていきたい。とりわけ、中学生と高校生のアンケートの中で厳しいご意見をいただいている。アンケートを実施する前に大人がどうしたいのかを示してからアンケートを実施するほうが良い意見がでるのではないかと。この審査会もまだ2回目ということで今後回数を重ねる中で議論を深めたい。

・**委員** アンケート結果で議論をするということであった。41ページからとても参考になることが書かれている。これらをやってほしい。中学生や高校生のアンケートにもあるが。

・**事務局** そうですね。今日は町民アンケートを中心に意見交換をいただきたい。委員のみなさんの感想といただけますか。私はこう思ったとの意見をいただければ。

・**委員** 高校の存続問題がある。ここにも3番目に出てくる。本別町は福祉に力を入れている。高校に福祉科をつくったらどうか。それから農業科や商業科が昔はあったので、つくるという意見もある。貴重な意見だと思う。全国的にみても農業高校への人気があり、男子生徒ばかりでなく、女性生徒も増えてきていて、半数近くになっている。農業大学校も女性が増えていて、女性寮を増やした。土幌高校に行っている人もたくさんいる。本別高校も大学校と連携することで何か行えないものか。

・**委員** アンケート結果報告説明ではページをめくるのに必死だった。それぐらい色々な意見がリンクしているのだと感じた。説明のあった今後のサービスをどうしていくかの所で「負担を増やしてでも今のサービスを維持すべきだ」と答えた方が20歳代はゼロが多い。あっても少数。人口分布をみても若い人、特に女性が少なく、「今後も本別町に住み続けたいですか」でも住み続けたい人は多いが、若い世代はすごく少ない。この若い世代が経済的にも苦しい状態ではないかという部分が垣間見える。これでは子どもも増えないし、生産年齢人口が増加しなければ、いくら福祉を手厚くしても人口は増えない。人口が増えることは無理としても経済的に良くはならないと感じた。

・**委員** アンケート結果からの意見ということであるが、今、話にあったように若い世代になるにつれて本別町に住み続けたくないという結果。本別町に今住んでいる人が全体的に思っていることなのかとの疑問も。60歳代、70歳代の人々の回答が多い。しかし、本別町に住んでいる65歳以上の人の比率も多いのでやむを得ない。アンケート結果はその高齢の世代の人たちの声が反映されていて、結果としてそう出てきている。今の本別町の60歳代、70歳代の人たちは現役で働いている人が多い。農業でもそう。その人たちが現役を退いたときに本別町の働く人たちが極端に減ってしまう。農業も建設業も雇用を確保するために外部からの派遣社員が増える。しっかりと本別町の若い人、中学生、高校生が本別町に止まれるよう、町外に行かないようにして、本別町に住み続けていくことを考えて行

かなくはないと感じた。

・委員 6次計画がどこまで実施されているのか、計画だけで終わっているのかが見えてこない。7次計画に向けて、計画だけで進んでいくのか。実行状況を知りたい。もうひとつは財政難。問題のひとつに町立病院の要因が大きい。効率化案というものも聞いたが、どれぐらいまで改善されてきているのかも見えてこない。計画だけ示されて、その後の状況説明は来るのかどうかを知りたい。

・事務局 6次計画の総括（検証、反省）については、本日、配布した資料1というものがある。総合計画は1章から5章までで作成されている。第1回審議会でお渡しした、紫色の後期基本計画について、どのように進んでいるか、まだ計画期間が1年半残されているが、ここまで進みましたというものを、それぞれまとめたもの。病院についてはこれから具体的に検証されると思うが、私個人としては、この地域に病院がいるのか、いないのか。町の病院にしか行けない人もいる。でも、そこにお金をかけて町が破綻して良いのかということもある。町民皆さんの意見を聴いて、専門医をどうしていくのか等、お諮りしていかなければと思っている。今後、具体的に今の状況や今後のことについてお示しするようになると思う。

病院の赤字経営だけが財政を圧迫している訳ではない。普通交付税、国からくるお金が平成25年度から下がっている。普通交付税が30億円ぐらい来ていたものが、30年度は25億円で、5億円も減っている。国は地方は貯金をもっているだろうと、国も厳しいので貯金があるのであれば交付税を削減するという考え方。貯金といっても色々な目的をもった積み立てをしている。じわりじわりと減らされている普通交付税の削減によって、支出を減らすことも出来ない状況から、収入の減を貯金で賄う。病院へと繰り出していたお金は交付税で賄っていたものが、如実に歳入が少なくなったことにより厳しくなっているという状況。病院の赤字は今、始まったことではないという用語があるが、その中で5年、10年かけてやってきたことが、歳入減少の影響によって貯金を使ってきた。この歳入減少が無ければ、さして問題にならないことであつたかもしれない。

・委員 5年たつて出てきた問題。じわじわだったけれど、一気に赤字になったのではない。その前から改革、計画の中でももっと早く対処しなければいけなかった。

・事務局 そのとおりで、しっかりと議論すべきと思う。病院では改革プランによって進めている。人口も5年間で1,000人減ったことによって、患者さんの数も減っていることが収益に大きく影響しているのも事実。厳しい状況にある。

・委員 病院の改革プランにある地元の病院とのつながり、検査だけでも受診してもらうということも聞いた。そういう話もできますよね。

・事務局 本日、お配りした後期総合計画総括の中に記載されている。国保病院で手術をしている件数と、CTやMRI検査のための件数が書かれている。136ページ。この資料の内容については部会の中で検証していく作業を予定して、今日はアンケート結果の中で委員さんが気付いて点やこれからのまちづくりについての意見交換の場としていきたい。

・委員 アンケートの中で自慢したいことの中にきらめきタウンフェスティバルとの回答が多かった。その割には毎年のきらめきタウンフェスティバルの内容があまり変わらない。例えば中学生や高校生でも楽しみにしているのであれば、一緒に祭りをつくる準備から企画に参加してもらうとかの工夫があれば、管内、管外からのお客さんをもっと呼べると思う。毎年、ラジオの公開録音で歌手を呼んでいるが、その歌手によって集客数が大きく変わってしまう。もう少し、自分たちの力を発揮して手法を変えてみても良いのではないか。中学生や高校生参加ではポスターのデザインを募ってやったり、携帯SNSで発信をしてもらうなど、時代に即した取り組みがあると思うので、参加型の取り組みをすべきでは。

・委員 アンケートを見て感じたことは、本別町に住みたいという人は町民アンケートでは50%いる。中学生ではよそのまちに出ていきたい。そこに何があるか。町民アンケートでも、中学生・高校生も本別の自慢できる場所、良い所も同じような結果になっている。自然・本別公園であつたり、豆で

あったり。では本別の良さを感じているのにどうしてここにとどまれないのか。居たくないのか。本別町の魅力とは？ということだと思ふ。病院の問題も出たけれど、病院も中身だと思ふ。調子が悪くても対応の仕方が気になる、引っかかることがあったりする。ところが、札幌や帯広に行くと対応が違う。そのようなことをどうするのか。どうしたらいいのか。病院の事務は他の事業所から来ている。本別町に住む人ばかり雇っているわけではない。その人たちの役割を、町の学生たちが担えるようにすると、本別から出る人も少なくなるのではないかと。実際にはそうなるかはわからないが。しくみをつくることにより、本別が良いと感じている多くの人たちが居るのだから。なぜ、とどまらないのか。そこの対応を私もずっと考えたが答えは出せなかった。その答えが知りたい。

・**委員** 町民1,000人、中学生、高校生へのアンケートを取ったが、本別を変えていくのであれば活動している事業所へのアンケートも重要では。それと先程から出ている病院のことで、患者さんが戻ってこない。病院は努力している。健康長寿の町づくり会議にも何度も来てくれて説明を受けている。でも実際に変っていかない。町立病院にはかかりたくない人もたくさんいる。原因は何であるのかを本気で解明して、みんなでそれを共有して反省をしていかないと。この間、改善リストにのってしまって、今後、縮小対象となった。今の段階で追及していかないと他町村にも患者が流れている状況なので深刻と思ふ。

・**杉田会長** 今の意見に加える、また、違う意見はないですか。町立病院でほかに取り組みされていることがあれば教えていただければと思ふ。

・**事務局** アンケート結果の意見もすでに職員に見せている。今、出していただいた意見も踏まえて病院に伝えていく。町外の病院に行ける環境の人といけない人が居て、その方たちの意見もいただき、職員も私たちも今後どうしていくべきかを判断していかなければならないと思ふ。

・**委員** 今回のアンケートをふまえて意見交換ということだが、色々悩みや分からないこともあって、今後の話し合いの中で、前回は財政状況の説明をしてもらうのに担当者に来てもらった。今後の話し合いの中で他の部署の方を配置していただくことが良いのではないかと。意見をしたいけれどもその先に進めなくて消化不良の状態で帰ることにならないよう。

・**事務局** 第1回、第2回とまちづくりに向けて大きなところから形づくっていく中で、将来像、大きなところから取り掛かっていこうと考えた。今後10年間、本別町をどの方向にすすめるのか。次のステップとしてどうしていくのか。皆さんに何をさせていただくか。町は何をするのか。さらに具体的にどんどん細かく誰が何をするのか役割を決めていく。大きくまちづくりの方向性を決めて、5年、10年先を見据えて、中間とゴール地点の目標とそれに必要な施策、お金とどんどん細かく計画していきたいと考える。細かな施策から入ると、大きなめざすべき姿が見えなくなる場合があるので、手法として大きな目標から決めていきたい。今回はアンケートから方向性を模索したい。細かな施策の段階等では主管課長等の出席をもらって、細かな議論をする場所も設けていきたい。

・**委員** 10年計画で10年前には人口減少ということは考えていなかったのか。これからの10年という時には人口が減っていくと言っている。ゆったりとして考える状況ではない。

・**事務局** 人口について以前は右肩あがりの計画を作った。今は現実を見ながら、国立社会保障・人口問題研究所という専門機関があり調査を行って、2040年には5,000人台になるという数字が理論上でている。実態を踏まえながら、先ほど他の委員が言われた人口が減っていきながらも、イベントや観光事業で交流人口を増やす。本別に来てくれる人を増やすことによって、経済的な補いを行う。10年先の計画を立てただけで終わりではなく、総合計画は3つの柱ということで、10年の目標、帯広市で言えば「あおあお ひろびろ いきいき 未来を信じる 帯広」というのがイメージとしての10年間。そして、前期の5年、後期の5年に分けて、さらに施策については3年先の計画を毎年見直しする。そのひとつひとつについての施策はみなさんから意見をいただいていく。

・**委員** 私は前回の策定委員でその時にも人口減少対策について話をしてきた。本別は減っているが増えているところもある。上士幌。十勝管内でも2か所ほどは増えている。色々な活動をしたり対策

もしている。そのようなことも本別でしていれば同じようになっていたかもしれない。どう施策が違うのか、そこを見て提案をしてほしい。なぜ、上士幌は人口が減らないのかの仕組みを研究してほしい。

・**事務局** みなさんからご意見をいただいた中に 20 代、30 代の女性が少ない。男性も含め生産年齢人口が少ない。ということについてどうしていくべきかということがあった。人口増を 5 年後、10 年後に増やしていくことは難しい。すぐに増えていくものはないので、施策がどう違うのかということを検証する必要がある。上士幌はふるさと納税などの財源から、保育・子育て施策の無償化などを行っている。これは色々な工夫があってお金の成果ばかりではないと思う。そういった箇所も参考にし、本別ならではの手法であったり、施策の重点をここに置いてというご意見をいただいて、具体的に細かく実施をしていく必要があり、補強をしていただければ。

・**委員** 補強という意味で。いま、地域づくりセミナーというものがあって参加している。人口が減っても楽しいまちということをやっている。このまちは豆ということで、加工場を J A と町が一体になって造ったらいいと。製品だけではなくて、小豆であれば餡をつくる加工場。加工場があれば就労にもつながるし、付加価値も付く。加工用であれば製品にならないような原料も使えるので農家の所得にもつながる。東京では十勝の餡がほしいと。豆の値段も上がっている。付加価値をさらにつけられたらどうか。

・**杉臣会長** みなさんから出た意見等について例えば町が支援するしくみをつくることで、つながっていくのではないかという意見ですね。

・**委員** 町営なのか、J A 等で施設をつくるのか等は今後の話になるが、そういう施設があればいい。隣町では冷凍工場があって、また、隣町では芋のコロケをつくる工場があって、付加価値をつけて販売することで町も潤うし、本別の店にも加工したものを使ってもらうことによって高め合っていければ。

・**杉臣会長** 本別にとどまりたいという意見を見ていくと「家がある」「仕事がある」という私的な環境、町との結びつき。もうひとつは人と人とのつながり「住み慣れたまちだから」「友人や良い隣人がいるから」「親や子どもがいるから」等人的な関係がある。この 2 つが重要ではないか。その割には、若い人への支援が少ないように思える。支援するのであれば支援すると。人と人との結びつきについては、先ほども出ていたきらめきタウンフスティバルへの参加を若いうちから参加しながら人材を育てていく。人と人との結びつきも資源として、全体的な地域としては若いうちからイベント等に関わるしくみをつくっていくこともひとつの価値になる。そして、皆さんの意見でもあったように就労につなげていければ。

・**委員** 地域づくりセミナーに参加している。そこで北海道田舎活性化協議会の話がされた。本別は参加していない。こういうものに加入して、企業に来てもらって、空気のきれいな所に来て、本別で仕事をする。良いことだと思う。

### (3) アンケートの結果及び委員意見からのまちのすすむべき方向性を協議

・**杉臣会長** 引き続きご意見を伺い、次のすすむべき方向性につなげたい。まちの進むべき方向性についてどのような意見があればよいのか。

・**事務局** 今までの意見として、生産年齢人口が少ないため、若い年代の定着。仕事がなければならぬという意見もあり、イベント等への若い人の意見を取り入れ、関りから愛着を深めてもらうというような意見があった。一方の若い人たちは札幌に出て行く。札幌の人は東京に行きたい。という現象が全国的な課題になっている。一度は大学等でも本別の人間性や自然が良いと、戻って来てもらう環境づくりも必要と考えながら話を聞いていた。仕事づくりの話もあった。しかし、若い年代がその仕事をするのを望んでいるかとの問題もある。しかし、本別にとどまってもらう、戻って来てもらうための取り組みをする必要がある。農業をされている方で若い後継者も多くいる。若い人たちで先にもあったが本別の良さの発信もしていただきたい。

大枠として、事務局としては先程、委員からもあったとおり、60歳・70歳代の方が多く暮らしているということもあり、今後も暮らし続けていくためにはどうしていくかということが重要になってくると考える。アンケート結果でもあった、災害・犯罪が少ない。安全に暮らすことができる。子どもが元気にすごせる。文化的な生活をおくる。というあたりまえに暮らすことのできる環境づくりをまず行うことが大切。その次に華やかなという部分が付属してくると思う。今日の話の中で方向性を位置付けすることは難しいと考える。今日の意見を整理、取りまとめながら、事務局としての案を示しながらご意見をいただきたい。

今日のキーワードとしては若い人を大切にしていくということがあったが、それを指針にして行くことで良いか。

・**杉臣会長** これまでの話し合いのなかでは生産人口の減少、産業振興、情報発信でまちづくりを進めて行くべきという意見もあった。若い人への配慮、施策が主に出ていたような気がしますが、例えば福祉関係とか教育などまちづくりに力を入れて若者の支援をしていくべきというような施策にしていくということではよろしいでしょうか。これに加えて、さらに何かご意見がある方はお願いします。

・**委員** 中学生の意見で勇足のまちにお店をつくってほしい。本別市街では便利さがある。本別まで20分かかるような地区の人たちも住みよいまちになっていけば、変わっていくのではないか。このアンケート結果をみてそう感じた。高齢者も便利性の高い町になれば、みんなが住みよいまちになる。

・**杉臣会長** 買い物のしづらさを解消すべきと。

・**委員** 若者や高齢者だけでなく、少し離れた地域のこともどのような環境にあるのかを知ることも大事。上水道も整備されていないところもある。それを全体が理解して、どうすべきかを検討していくことも大切では。

・**委員** これも地域づくりセミナーの中で出た話。町の中にある空家を利用して、高齢者等が集まれる場をまちの中につくってコーヒーなどが飲めたらいいねと。

・**事務局** 先程、会長よりもあったが、人と人とのつながり、コミュニティを大事にしていく。本別らしく、将来にわたって大事にしていくべき。中学生のアンケートの中で高齢者のことを優先してほしい。福祉にお金を使ってほしい。普通であれば自分たちが楽しくなるような意見になると思うが、本別がこれまで培ってきたコミュニティの中で中学生が考えているということも財産としていくべき。第6次の計画はまだ終わっていないが、伸ばすべきところは伸ばして、今まで実施はしてきたけれども方向転換をしても良いのではないかとということも、ご意見としていただきたい。方向性としてキーワードを出して行って。キーワードを繋ぎ合わせて、帯広市の総合計画素案の8ページのような、将来のまちのすがた 「あおあお ひろひろ いきいき 未来を信じる 帯広」とこのような大きな目標を定めていくのが帯広のスタイル。本別は杉臣会長からもあった、雇用・産業を大事に、町民のみなさんがイベントに関われるしくみ、若い人たちから郷土愛が育つような取り組みが必要で、人と人とのつながり、コミュニティを大切にしていくという話、もうひとつは若い人がまた本別に帰ってこれるしくみ、生産年齢人口である人々が充実した暮らしができること。それらのキーワードを次回の会議では何点か作成して、それに基づいて、みなさんから「それでは伝わらない」「このことばに」というようなことを修正いただきながら、将来像をつくることをしていきたい。まずは大きな行き先を方向づけていく流れにしたいと思う。

今日の会議は一定の時間の限りがあるのでメールやFAX、電話等で言い忘れたことやわからないことなど事務局にいただき、今後も回数を重ねていきたいと思う。

アンケートの内容についても見きれていないこと、お配りした資料等についても、見ていただいて内容について吟味いただく必要がある場合もあるため、先ほどのキーワードや目標については、事務局で取り進めながらも、確定では無く、みなさんの議論によって決めていきたい。今後、そのような形で進めていきたいということをご提案させていただきたい。

・**杉臣会長** 事務局より提案があったように、今日、出た意見で全て決めずに、次回で意見をいただ



き、反映できるような形ですすめていくことでよろしいでしょうか。

・**委員** 障がい者施策として前回の計画策定にあたって、全ての障がい（身体・知的・精神）について任せられるような専門職の配置を要望したとのことであった。

・**事務局** 確認する。

#### (4) 今後のスケジュールについて

・**事務局** 12月の中旬には第3回を開催するが、進捗状況から内容を変更したい。議案の6ページに記載の後期計画総括審議、まちづくりの理念協議、施策の重点に協議となっているところ。本日の会議結果をまとめて、何をめざしてまちづくりを進めるべきかについて協議したい。また、今日お配りした後期計画総括について各部会ごとに別れて、内容を掘り下げながら何を続け、拡大すべき、場合によっては事業をやめたりすることについて議論をしながら進め、審議会の意見としていきたい。開催日時については部会長と協議をして決定させていただく。その審議状況により、審議会を2月下旬、または、4月前にもう一度させていただくなどして、来年の6月までには基本計画案を審議決定し、町民のみなさんにパブリックコメントにより意見をうかがう。町民意見について調整後、町長へ8月答申し、9月に議会提案する。今回の会議を受けてスケジュールも少し変えることから、作成したものを後日、お示しする。

#### (開催案内時送付資料説明)

帯広市新しい総合計画の策定方針 ⇒参考イメージとして

第七期帯広市総合計画 ⇒ 同上

SDGs資料(2資料) ⇒ エスディージーズと読み、国連で平成27年9月に採択された国際社会の共通の目標で経済、社会、環境で課題の解決に立ち向かうとして17のゴールと169のターゲットを設定し、その下にさらに232の数値目標指数というものがある。日本も平成28年にこれらに取りくんでいくこととなっている。1番のゴールでは「貧困をなくそう」とうたわわれていて、日本はそうでないと思われがちだが、もう一つ横書きのSDGs資料を見ていただいて、7ページ右側に「日本の状況」とあり、子どもの貧困率はOECD加盟34か国中10番目に高く、子ども世帯のうち、ひとり親世帯の相対的貧困率は加盟国中最も高くなっている。以下、17のゴールごとに日本の状況が書かれている。日本も関係ないことではないという資料として見ていただきたい。

このSDGsを総合計画に取り入れている自治体が増えている。本別町でも取り入れるかどうかということは今後、お諮りしていくための資料。また、今日の配布資料1は今後計画期間も残っているので、変わってくる部分もある。4章5章も引き続き作成して、皆さんにお配りしたい。

## 6. その他

・**杉臣会長** それでは議事を終了し、その他に入ります。事務局よりありますか。(ありません) みなさんからありますか。なければ閉会させていただきます。

## 7. 閉会

**杉臣会長** 長時間にわたり大変ありがとうございました。